

## 藤樹人間学塾： 藤樹思想を学び考え実践する

塾長 田中 清行

「藤樹人間学塾」では、藤樹先生関連の著書を中心に思想を学ぶとともに自らの頭で考え、時事問題と組み合わせて皆で議論しながら思考を深め、日々の生活の場で実践することを目的に毎月開催しています。本稿ではその概要をお伝えいたします。

■九月、安曇川公民館で第百五十三回人間学塾を開きました。大阪から一名、京都から一名、大津から一名を入れて七名でした。

●テキスト

『中江藤樹・熊沢蕃山』（中公バックス日本の名著）

●今日のポイント

・三教一致・・・世界四大宗教の共通項は「大宇宙や神のような偉大な存在への畏敬」と「すべての生物が共存しなければならぬ」ということが挙げられる。

・「何かに支えられて」・・・「自分を超越した何か」に自分が支えられていると信じていることができるならば、その人は自分の生きる意味も理解できる。

◇フリートークキング

・「歳月人を待たず。今の一瞬、一瞬を大事に生きることをご心がけている」

・「大いなる存在をさらに探求したい」。

■十月、第百五十四回人間学塾を開きました。大津から四名を入れて九名の参加でした。

●テキスト

『中江藤樹・熊沢蕃山』

●今日のポイント

・よい武士（社会人）は、勇気があり、武道、武芸（高い専門能力）の心掛けが深く仁愛の心から世の無事を好むが、いざ事変が起れば身を忘れて大きな働きをする。



・山崎弁栄師は、われらはすべて大宇宙の分身であり、肉体の死とともに心は大宇宙のもとへ帰り、同胞とともに極楽の生となると言われている。

◇フリートークキング

・「本（もと）」と枝葉の本とは本業を頑張ることだと理解した」

・「私は先月アメリカへ行った時に、ホームステイ先で藤樹紙芝居「馬方又左衛門」を英語で説明した。藤樹思想を世界に広めようとする思いでやった」

■十一月、第百五十五回人間学塾を開きました。京都から一名、大津から一名を入れて六名が参加。

●テキスト

『中江藤樹・熊沢蕃山』

●今日のポイント

・内典と外典・・・形色のあるもの（二元相對の世界、目に見えるもの）はみな無（二元絶対の世界、大宇宙）から生じるので、有・無はもともと二つのものではない。仏教でも、もとは有・無を二つのものとしていない。中庸の説明も行った。先天の図の説明を田口氏の資料も使って行った

◇フリートークキング

・「蕃山は幕府に対して反発するだけではなく、評価すべきは評価していたことが分かった」

・「今は宗教心がないが、開眼したら幸せに死ねると思った」

■十二月、第百五十八回人間学塾を開きました。京都から一名、大津から二名を入れて八名が参加。

●テキスト

『中江藤樹・熊沢蕃山』

●今日のポイント

・世の人がごぞつて誉める人がいる。この人の人柄は十のうち八は善い。二も悪いのではなくこの人の疵（きず）である。この疵があるために人々が誉めるのだ。

・徳とは、自己の最善を他者に尽くしきること。徳を積めば、運が強くなり、人生が豊かになる。

◇フリートークキング

・「親しい人が亡くなった。当たり前朝が来るのではない。今、自分が生かされていることに感謝し、一日一日を大切に生きたい」等の意見をいただきました。ありがとうございます。

人間学に関心のある方は是非お越しください。無料です！

### 藤樹人間学塾 今後の予定

一月一日（土）、三月一日（土）、

四月五日（土）

■時間（原則） 十五時～十七時

■場所（原則） 安曇川公民館